

# JUST DO IT.

令和5年1月17日（火）

亀岡市立東輝中学校生徒指導通信

文責：生徒指導主任 人見 麻友

## 1. 17は決して忘れてはいけない日。

1995年の1月17日、阪神淡路大震災は28年前のことです。28年前のこの日、午前5時46分に淡路島北部を震源とするマグニチュード7.3の地震が発生し、多くの尊い命、住み慣れた街並み、私たちの大切なものを一瞬にして奪い去りました。これはみんなが生まれる前の話です。

みんなが知っている震災と言えば、東日本大震災かもしれないし、熊本地震や大阪北部地震かもしれません。特に大阪北部地震は2018年6月18日午前7時58分に地震が起こり、登校中の小学生が亡くなるなど多くの被害があり、まだ記憶に新しいかもしれません。しかし、1995年1月17日に起きた阪神淡路大震災では6434人の命が奪われてしまいました。私たちはこの1月17日という日を忘れてはいけません。

あれから28年が経ち、ずいぶん復興してきているとは思いますが、今でも家族を失った悲しい思いを抱えて生きている人や故郷に戻れないままの人もいます。一度失われた命は完全には元通りに戻ることはないのです。そして、被災された方々の心は癒えることがないのです。命を失った人の中には、みんなと同じ年齢の人もたくさんいます。これからの人生に夢や希望を描いていた人、たくさん勉強していろいろなことにチャレンジしようとしていた人、夢に向かって進路を進めていた人など、まだまだ無限の可能性を秘めた人たちがこの震災で一瞬にして消え去ってしまいました。そこには、生きてくても生きられなかった命があったということ。人間はときには無力です。どんなにあがいても自然の大災害には勝てません。ただ憎むことしかできないのです。だから先生たちは、経験した貴重な震災の記憶を風化させてはいけないと思っています。絶対に起こってはほしくはないけれど、いつかまた起こりうる震災に立ち向かえる強さやたくましさ、みんなを支え合う力、そして生きることへの感謝の気持ちを胸に、日々生活していかなければなりません。

今私たちにできることは、今を一生懸命生きることです。その中で、まずは自分の命を大切にすること、自分の周りにいる人の命を大切にすること。生きてくても生きられなかった人がいることを心に刻み、今を大切に生きることです。

日常の忙しさやコロナ禍で常に思い出すことは難しいかもしれませんが、この1月17日は命のこと、防災のこと、当たり前前かが当たり前前にできることに感謝する日にしてください。そして、今日は命についてみんなもしっかり考える日にしてください。

近年は、新型コロナウイルスの話題で持ち切りですが、1日も早い感染の収束を願うにはこれまで学んだ経験を生かすことです。みんなを支え合い、協力し合って平穏な日常に戻れることを祈っています。